

アレック ビジエン  
パリ病院医学会教授  
クレモンソー病院内科老年病学科長  
91750 シャンプキュイユ

シャンプキュイユにて、2007年9月14日

親愛なる同僚の皆さん、

認知の機能を刺激する我々の方法手段として、音楽療法が始まります。

10年以上前から、私は、行動の再適応のための一つの方法としての“歌”を研究する分科会を持っており、その研究をアシストするピック夫妻と共同研究をしています。彼らの仕事は、例えば、患者の年齢や、その社会文化的な起源に目印をつけ、患者が若い頃歌った唄の歌詞を取り戻すように導くことです。

年々、徐々に、失語症の症状が進行している患者が、歌詞をはっきり発音し、歌う声を耳にします。激しい痴呆症の患者が、1～2日の間、行動障害を起こさない様子を目にします。

そして、特に、患者達が、向精神薬を服用せずに、悲しみや不幸から脱する姿を目にします。

私は、老年病学におけるこの活動を、強く推奨します。それは、指導ではなく、治療です。副作用のない有効な治療です。ピック夫妻によって開発されたこのシャンプソーの技術を、特に強く推奨します。

まずは、親愛なる同僚の皆さんにお知らせまで。

敬具